

大学医学部・医科大学における社会医学実習の教授目標

ヤノ 栄二* ヤマウチ 泰子* マエダ 洋士* クサカ 幸則2*
ナカホリ ユタカ モトハシ ユタカ ヤスマラ セイジ
 中堀 豊3* 本橋 豊4* 安村 誠司5*

目的 全国の大学医学部および医科大学の衛生学公衆衛生学講座が行っている社会医学実習の現状を把握し、改善の方向性を探るため、各校の教授目標を集め、その内容を検討した。

方法 平成14年12月に、全国の大学医学部および医科大学の衛生学公衆衛生学講座の協力により社会医学実習の教授目標についてのアンケートを行い、その内容の検討を行った。教授目標の記載の有無については、知識・態度・行動の各領域についてそれぞれ複数のキーワードを設け、その出現頻度を領域別に集計した。教授目標の記載内容の質の評価については、9項目の評価基準を設け、それぞれ3段階の判定尺度で複数の判定者が判定を行ったものの項目ごとの平均値を求めた。

結果 記載の有無については8割の大学が一般教育目標（GIO：General Instructional Objective）について記載をしていたが、具体的行動目標（SBO：Specific Behavioral Objective）の記載が認められたのは6割の大学においてのみであった。さらに4割の大学においてGIOとSBOの両方の記載が不十分であった。記載内容の検討の結果、“GIOで学生が主語”の記述がなされている講座は多いが、“SBOで知識・態度・行動のそれぞれの領域に涉った記述”は少ないという傾向がみられた。また、GIOとSBOの区別が明確ではない傾向もみられた。

考察 医学教育で実習が重要な位置を占めているにもかかわらず、わが国の社会医学実習においては十分な教授目標が設定されていないという傾向が示された。今後わが国の衛生学公衆衛生学教育では、実習に際し一般的な目標だけでなく具体的な行動目標を設定すること、また知識のみに偏らず、態度・行動も含んだ習得すべき能力を明確に示したカリキュラム作りが必要である。

Key words：一般教育目標（GIO）、具体的行動目標（SBO）、社会医学実習、教授目標

* 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座
 2* 福井大学医学部環境保健学講座
 3* 徳島大学医学部大学院栄養学研究科
 4* 秋田大学医学部公衆衛生学講座
 5* 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座
 連絡先：〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室 矢野栄二